

# 海外ボランティアが副知事を表敬訪問しました！

令和6年1月18日(木)、独立行政法人国際協力機構(JICA)の海外協力隊等として出発する万久弘子(ばんきゅう ひろこ)さん、兼上泰行(かねがみ やすゆき)さん、山田進一郎(やまだ しんいちろう)さんの3名、帰国された岩堀 睦宗(いわほり ともかず)さんが中村副知事を表敬しました。



## ● 出発隊員 ●

万久さんは、令和6年1月末から2年間、日系社会海外協力隊としてブラジルに派遣されます。アラサツーバ日本語普及センター(日本語モデル校)に配属され、日本語や日本文化を教えます。

これまで、国際交流会館で日本語クラスを担当したり、プライベートレッスンを行ったりするなど、県内で外国の人向けのボランティア活動を行っていました。JICAで活動した方の話を聞くうちに、自分も参加したくなり、応募を決めたそうです。

現地では、日本語教育の他、日本文化も教えてほしいという要望があるため、茶道の指導をした経験を活かし、「お茶会」を催したいと思っているそうです。また、福井村にもぜひ行きたいとのことでした。

万久 弘子 さん



兼上 泰行 さん



兼上さんは、シニア海外協力隊として南米のエクアドルに令和6年1月末から2年間派遣されます。配属先であるティエラヌエバ財団は、障害児・者支援、医療支援、社会的養護を目的として設立された団体で、兼上さんは、施設利用者ひとり一人の発達段階や個別のニーズに即した学習や日常生活の支援を行います。

40年にわたる教職経験の中で、子どもたちから人と関わることの大切さや喜びを覚えてもらったことから、これらの経験を現地で恩返ししたいとお話されました。

活動中の経験を積極的に情報発信し、帰国後も経験や言語を活かして福井県内の地域の活性化やコミュニティづくり、国際的な支援に全力で貢献したいとのことでした。

山田 進一郎 さん

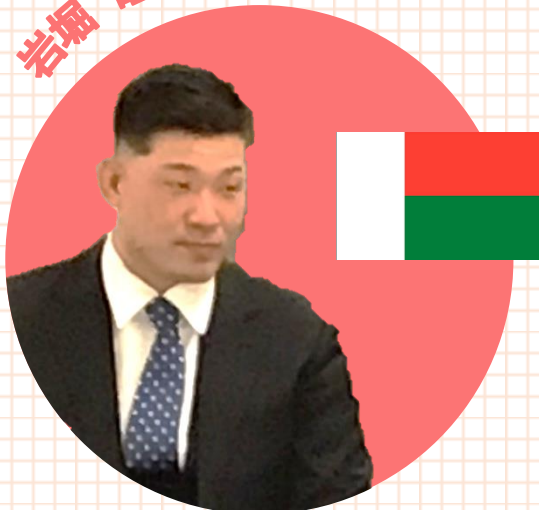
山田さんは令和6年1月末から2年間の予定でコロンビアへシニア海外協力隊として派遣されます。山田さんは、2018年からコロンビアで活動されていましたがコロナ禍のため途中で帰国し、今回再度派遣されることとなりました。

配属先は国立職業訓練庁カルダス地域局で、所属する産業オートメーションセンターでは生産工程の技術者の養成を行っており、学生の基礎となる算数・数学のレベルを高めるため、今回要請がありました。活動の目標は、山田さんが帰国後も、現場で有効な数学教育を続けられるような方法を同僚と構想し、実施・検証することだそうです。



### ● 帰国隊員 ●

岩堀 陸宗 さん



岩堀さんは令和3年12月から令和5年12月までの2年間、青年海外協力隊としてマダガスカルへ派遣されていました。マダガスカル柔道連盟に配属され、任地では、柔道選手の育成だけでなく、指導者へ指導法をアドバイスしたり、ナショナルチームに帯同して来日したりしました。また、教え子が国際大会で好成績を残したことから、マダガスカル大統領からスポーツ功労賞を授与されました。

コンクリートの上に畳を敷いて練習をするなど、苦労話も聞かれましたが、とてもよい経験になったとのことでした。

今後も、ボランティア経験を活かし、さまざまなことにチャレンジをしていきたいとお話されていました。

中村副知事は4名に対し、「県民が世界にネットワークを広げるのは県としてもありがたく、ぜひそのつながりを大事にしてほしい。県としてもそのネットワークを使わせていただくことがあるかもしれない。」と話されると同時に、出発される3名の方へは「くれぐれも身体に気を付けて活動してほしい。ぜひ、任地では福井弁を流行らせるなど福井をPRしてほしい」とお言葉をかけられました。



左から  
岩堀さん、山田さん、  
中村副知事、兼上さん、万久さん